

労働社会学会

(1) 日本労働社会学会：学会大会シンポジウムのテーマ

- ◆ジェンダー、女性労働について
- ◆労働者像・・・労働過程における労働関係、労働-生活過程における労働者像
- ◆政策動向を踏まえつつ、そのもとでの実態変動の把握・分析、労働者主体のあり方、労働運動・社会運動とのかかわり方
- ◆調査研究の重視
- ◆新入会員の傾向

(2) 日本の女性労働をめぐる問題と社会政策

- ◆日本のコンテクスト：「子どもか仕事か」という二者択一＝「古典的命題」【エスピン-アンデルセン 1999】のままにとどまる特異性
- ◆1980年代までに構築されたジェンダー秩序（企業社会体制） 【木本 2010】
  - ・大企業男性正社員の「家族賃金」体制
  - ・被扶養者としての主婦  
(会社人間+主婦→企業戦士+主婦)→1980年代：「主婦の座権」の確定  
→1990年代以降の「失われた20年」
- ◆女性労働者化と主婦化のせめぎあいとしての1960年代 【木本 2004, 宮下・木本 2010】
  - ・1970年代以降の「パート化体制」へ＝「労働の主婦化体制」へ
  - ・不安定就業形態の多様化・拡大→依然として継続就業の困難問題+不安定化・貧困化

(3) 新たな現実的課題

- ・女性と若年層を直撃する非正規化
  - ・家族の包摂機能の弱体化（熟年離婚の増大・晩婚化・未婚化）
- 個人の貧困問題の可視化、「高齢シングル女性世帯問題」

【Kimoto & Hagiwara 2010】

【参考文献】

- Esping-Andersen, G., 1999, *Social Foundation of Postindustrial Economies*, Oxford University Press( エスピン-アンデルセン 『ポスト工業経済の社会的基礎』 桜井書店, 2000年).
- 木本喜美子, 2004, 「企業社会の形成とジェンダー秩序」 歴史学研究会編集 『歴史学研究』 794号、青木書店.
- Kimoto, K. & Hagiwara, K., 2010, “Feminization of Poverty in Japan : A special Case?” in Goldberg, G., S., *Poor Women in Rich Countries*, Oxford University Press, 2010.

宮下さおり・木本喜美子,2010,「女性労働者の1960年代」大門正克ほか編『高度成長の時代 1 復興と離陸』大月書店.

木本喜美子,2010,「企業社会の変容とジェンダー秩序」木本喜美子ほか編『社会政策のなかのジェンダー』明石書店。

\*\*\*\*\*

5月21日：社会政策学会ジェンダー部会「雇用平等の現段階」（於：明治学院大学）

コーディネーター：湯澤直美 / 座長：木本喜美子

第一報告：清山玲（茨城大学） 「雇用平等と政策課題」

第二報告：Margarita Estévez-Abe（シラキュース大学）

「女性の就業と家事のアウトソーシング」

労働社会学会大会のシンポジウムにおける関連報告一覧(木本喜美子作成)

- ◇1989年シンポジウム 「労働問題研究の現状と課題」
- ◇1990年シンポジウム 「日本の労働者像研究と労働社会学の方法」
- ◇1991年シンポジウム 「現代日本の労働者像:ホワイトカラー」
- ◇1992年シンポジウム 「労働者像の国際比較:労働過程・労働生活を中心として」
- ◇1993年シンポジウム 「産業再編下の『中小企業』と労働者・労使関係」

◆1994年シンポジウム 「『企業社会』のなかの女性労働者」

- 1. 熊沢 誠(甲南大学) 「日本の能力主義と女性労働者」
  - 2. 木本喜美子(一橋大学)・古田睦美(一橋大学・院) 「性別職務分離と女性労働者」
  - 3. 橋本健二(静岡大学) 「『企業社会』日本の階級・階層構造と女性労働者」
- コメント : 笹谷春美(北海道教育大学)、北川隆吉(専修大学)

◇1995年シンポジウム 「『企業社会』と教育」

◇1996年シンポジウム 「転換期の『企業社会』」

◆1997年シンポジウム 「労働組合に未来はあるか:組織、運動、ユニオニズム」

- 1. 高橋祐吉(専修大学) 「日本的経営の変貌と労使関係の行方」
  - 2. 労働組合の新たな動向をさぐる
    - ・ 榎本純(連合・政策局長) 「連合の政策・諸活動の現状と未来」
    - ・ 設楽清嗣(東京管理職ユニオン・書記長) 「管理職ユニオンの可能性」
    - ・ 伊藤みどり(女性ユニオン・元委員長) 「女性ユニオンのめざすもの」
- コメント: 嵯峨一郎(熊本学園大学) 「労働組合の課題と可能性」

◆1998年シンポジウム 「国境をこえる労働社会」

- 1. 山田信行会員(帝京大学) 「国際的視点からの労使関係研究」
- 2. 塩沢美代子氏(アジア女性労働者交流センター)  
「日本の企業経営の変化や労働法の規制緩和がアジアの労働者へ及ぼす影響」
- 3. アンジェロ・イシ氏(武蔵大学) 「日本の外国人雇用が南米の労働者とコミュニティに及ぼす影響」
- 4. テリエ・グローニング会員(オスロ大学)  
「日本的経営の北米への移転にともなう労働者の変化、ヨーロッパでの議論もふまえて」

◆1999年特別報告・討論

- 1. 藤井治枝(東京農業大学) 「労務管理の変容と女性労働論」
- 2. 渥美玲子弁護士(金山総合法律事務所)  
「商社における女性労働と雇用差別:岡谷鋼機の事例を中心として」(仮題)

◆2000年シンポジウム 「ゆらぎの中の日本型経営・労使関係」

- 1. 林大樹(一橋大学) 「『日本的』経営・雇用慣行に関する日本企業経営者のイデオロギー動向」
- 2. 仲野組子(同志社大学非常勤講師) 「非正規雇用の拡大と雇用構造の変容」
- 3. 木下武男(鹿児島国際大学) 「日本型成果主義賃金と競争構造の変化」

コメント: 中川順子(立命館大学)

◆2001年シンポジウム 「新しい階級社会と労働者像」

1. 渡辺雅男(一橋大学) 「階級論・階層論の現在」
2. 白井邦彦(釧路公立大学) 「現代の雇用・不安定就業・失業とその対応策」
3. 林千冬(群馬大学) 「看護職者・介護職者の養成と就業構造の変化」

◆2002年シンポジウム 「階層構造の変動と『周辺労働』の動向」

1. 丹野清人(東京都立大学) 「労働力輸出機構の変容からのアプローチする周辺労働市場の変化:  
国内労働市場の変化は海外の労働力貯水池にどのような影響をもたらすのか」
2. 脇田滋(龍谷大学) 「派遣労働について」
3. 龍井葉二(連合・総合労働局長) 「パートタイム労働者の組織化と均等待遇の行方」
4. 久場嬉子(龍谷大学) 「ジェンダーのレンズからみる現在の「周辺労働」問題」

◇2003年シンポジウム 「若年者の就業状況と労働社会学」

◇2004年シンポジウム 「仕事と生きがい：持続可能な雇用社会に向けて」

◇2005年シンポジウム 「東アジアの雇用・労働とグローバル化」

◆2006年シンポジウム 「労働調査を考える：90年代以降を見るアプローチを巡って」

1. 野原光(長野大学) 「実態を見る眼と実態調査:1990年代以降の主として、自動車企業の実態調査をめぐる」
2. 上原慎一(北海道大学) 「技能形成と労働調査:鉄鋼業における重層的労働力編成との関連で」
3. 三山雅子(同志社大学) 「非正規雇用と労働調査:パートタイム労働を中心に」
4. 木本喜美子(一橋大学) 「労働調査とジェンダー:小売業の労働組織分析を中心に」

◇2007年シンポジウム 「若年者雇用のマッチング・メカニズムの再検討」

◆2008年シンポジウム 「労働者像のこの10年：市場指向と社会指向の相克のなかで」

1. 藤田栄史(名古屋市立大学) 「シンポジウム開催にあたって:労働の再編成と市場指向・社会指向」
2. 小川慎一(横浜国立大学) 「もうひとつの企業社会論:小集団運動とその周辺」
3. 神谷拓平(茨城大学) 「成果主義賃金・労働市場の外部化と日本的雇用慣行」
4. 鈴木玲(法政大学大原社会問題研究所)  
「日本の労働運動の再活性化の可能性について:再活性化「必然性」論の視角からの考察」
5. 村尾祐美子(東洋大学) 「ジェンダーと労働の再編成」

◇2009年シンポジウム 「介護労働の多面的理解」

◆2010年シンポジウム 「『新しい公共』における労働とサービス」

1. 松尾孝一(青山学院大学) 「公務労働の特質と公務改革下の変質—公共性の観点から—」
2. 櫻井純理(大阪地方自治研究センター) 「NPO が担う『公共』とその『労働』」
3. 萩原久美子(生活経済政策研究所) 「公共セクターと女性—福島県北の保育政策を事例に」

コメント: 林大樹(一橋大学)